

辺野古通信

第61号 2017年9月3日



厚木基地で離発着訓練に250人で抗議(9/2)



キャンプシュワブの浜にて(8/10)

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)

沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

欠陥機オスプレイを飛ばすな！配備撤回を！

■8/12「オール沖縄」主催の「翁長知事を支え、辺野古に新基地を造らせない県民大会」(奥武山陸上競技場)には猛暑の中45000人が結集(3頁)。翁長知事は「日本の独立は神話だ」と、オスプレイの事故原因も明らかにならぬままに飛行訓練再開を黙認している政府を痛烈に批判した。■8/14 小野寺五典防衛相が沖縄を訪れ翁長知事と会談した。翁長知事は新防衛相に次々と疑問と質問を投げかけ問い詰めた。普天間5年以内運用停止問題、SACO合意違反問題、普天間基地返還条件問題、そしてオスプレイだ。8/3の大臣就任以降、沖縄に寄り添うかのポーズを示していた小野寺だが、知事に詰問され化けの皮はすぐに剥がれた。わずか30分のやりとりで、ひたすら米国に寄り添う日本政府の姿勢、日米共同管理下の沖縄の軍事植民地状況が改めて露わになった。■オスプレイの重大事故が続いている。しかし事故原因の究明もないままに沖縄を、日本全国を飛び回っている。米軍の「運用」に口を出さない、何も言えない日本政府の姿勢が際立っている(2頁)。■8/18 トランプ政権下で初めての日米安全保障協議委員会(「2+2」会合)がワシントンで開かれた。ここで普天間飛行場の辺野古移設が「運用上、政治上、財

政上及び戦略上の懸念に対処し、普天間飛行場の継続的な使用を回避するための唯一の解決策であること」が再確認された。「辺野古が唯一」はこれまで何度も呪文のように繰り返されてきた「日米合意」だが、今回の共同発表の特徴は、「一層の遅延が平和及び安全を提供する同盟の能力に及ぼす悪影響に留意」と、辺野古の工事の遅れに対する懸念が赤裸々に盛り込まれたことだ。「工事が遅延されないことを願います」というティラーソン国務長官の懸念に対して河野外相が「私からは現行の日米合意に従い、強い決意で辺野古移設を進めていく」と力んで答えている(防衛省HP掲載の共同記者会見)。「2+2」で赤裸々に表面化した「工事の遅延」、その背後に何があるのか。終わったはずのボーリング調査が、新たに19ヶ所で始まる(2頁)■8/21 日米両政府を震撼させる米連邦高裁判決が出た。国家歴史保存法NHPAに基づき辺野古新基地建設中止を求めた米ジュゴン訴訟で、「原告適格なし」として門前払いした一審判決を破棄して地裁に差し戻した。工事停止を命じる可能性もある。注目したい。■辺野古・高江カンパは2,232,055円(8/31現在)。引き続きカンパを！
郵振 00210-0-2021 沖縄連続講座

辺野古の埋立てを止めよう！山城博治さんを囲んで

9月29日(金)18時半 横浜情報文化センターホール

辺野古・高江で、住民の抵抗を、力づくで排除して進む米軍基地建設。沖縄の闘いと報道の現場からの報告と提起を受け、何ができるか考える。

■お 話：山城博治さん(沖縄平和運動センター議長)

西江昭吾さん(沖縄タイムス東京支社報道部長)

■資料代：500円

■主 催：島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会/

神奈川平和運動センター/基地撤去をめざす県央共闘会議





加速する宮古島・石垣島への陸自配備

防衛省の2018年度予算概算要求に、宮古島市、石垣市に陸自を配備するため計396億円が盛り込まれた。宮古島市は一部施設の整備地が未決定、石垣市は市長が正式に受け入れ表明していない。さらに先島地域での使用を想定した島嶼防衛用高速滑空弾・新対艦誘導弾の開発に向けた研究費も盛り込まれた。避難計画も策定されていない。住民の犠牲を前提にした研究は許されない。先島の軍事要塞化を阻止しよう！

座込む市民に「日本語わかりますか」 防衛局職員がゲート前で暴言

8/28、キャンプシュワブゲート前で新基地建設に反対する市民に沖縄防衛局職員が「日本語わかりますか」と発言。高江の機動隊員による「土人発言」を想起させる。「沖縄戦中にスパイ扱いされるなど方言差別の歴史がある中、許しがたい差別発言」と怒りの声が上がった(8/30琉球新報)。民意を顧みない政権の強硬姿勢が、差別発言を再生産させている。

資料 (8/13 沖縄タイムス、琉球新報から)

8・12県民大会宣言 全文

戦後70年を経ても沖縄には依然として広大な米軍基地が存在する。県面積の0・6%のこの島に軍事施設の70・4%が集中し、県民は復帰45年経たずとも基地から派生する事件・事故、騒音・環境問題に苦しみ悩まされ続けている。

2016年も悲惨な事件が起った。元海兵隊員の凶悪な犯罪により、20歳の未来ある女性の命が奪われた。これを受け県議会は海兵隊撤退を求める決議を採択した。繰り返される米軍・軍属による事件や事故に対して県民の怒りと悲しみは限界を超え、同年6月19日には「被害者を追悼し、海兵隊の撤退を求める県民大会」が開かれ、6万5千人の県民が結集した。

同年12月には、米海兵隊普天間基地所属の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイが名護市安部集落の海岸に墜落大破する事故も起きた。真野座村や金武町の民間地、さらには危険な物資のつり下げ訓練も激化し、貴重な世界自然遺産にも匹敵する貴重な自然環境が残り、県民の水がめでもある東村高江地区や、伊江村で昼夜を問わず低空飛行訓練が日常化している。

また、今年5月には、普天間基地所属のオスプレイがオーストラリア東海岸沖で訓練中に輸送揚陸艦に衝突、墜落する事故も起きた。事故の検証も行われず、普天間基地では同型機の飛行が再開された。今や欠陥機オスプレイ墜落の危険性は県全域に広がっている。

さらに、嘉手納基地への相次ぐ外来機の飛来、嘉手納基地・事故に対する県民の怒りと悲しみを市津堅島沖における米軍パラシュート降下訓練の強行など、米軍基地の負担軽減とは程遠い現実を県民は生活の中で強く感じている。県民が何度も要求してきた日米地位協定の抜本的改定もまだ放置されたままだ。世界で最も危険な普天間基地の危険性を20年間放置し続け、固定化してきた一番の当事者は日米両政府である。政府と県の約束である普天間基地の5年以内の運用停止を強く求める。今年には日本国憲法施行70年、県に憲法が適用されて45年の節目の年にあたる。沖縄に憲法が適用されているのであれば、県民の民意は反映されるべきである。

政府は、法解釈を曲げ、沖縄の民意を圧殺し続けている。手続きを無視し、法をおかしてまで行方不明な違法埋め立て工事、私たちが問いたい。この国に真の民主主義はあるのか。法治国家とは何か。

私たちは翁長知事が提訴した辺野古新基地建設事を差し止める訴訟を全面的に支持し、全力で支える。

私たちは、辺野古新基地建設「断念」オスプレイの配備撤回、普天間基地の閉鎖、撤去の実現を日米両政府に強く求める。

私たちは、豊かな生物多様性を誇る豊かな辺野古・大浦湾の美ら海に新たな基地を造らせない。翁長知事を最後まで支え、地方自治、民主主義、人権を守るため、この不条理に全力で抗い続ける。

以上、宣言する。

2017年8月12日
辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議

琉球新報 THE RYUKYU SHIMPO 8月13日 第1818号

辺野古新基地ノー オスプレイ撤回を

県民大会に4万5000人

「日本の独立、神話だ」 知事、米大使を批判

埋め立て承認撤回へ 知事「必ず、決意再び」

県民大会特別決議

県民大会宣言

「This is海兵隊」上映&猿田佐世講演の集いに100人参加！

7/27（金）の夜、横浜市開港記念会館にて「辺野古新基地建設 No!海兵隊の撤退を！7.27 映画と講演の集い」が開催され、会場満席の約 100 人参加。主催は島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会。

まず高梨晃嘉・代表世話人から主催者挨拶があり、『庄殺の海』『高江—森が泣いている』など辺野古・高江のドキュメンタリーで知られる森の映画社製作の最新作『This is 海兵隊』（57 分）が上映された。

映画上映後に、「辺野古高江派遣基金・神奈川」からカンパの呼びかけ。辺野古・高江の座込みへの参加が訴えられた。

続いて新外交イニシアチブ（ND）の猿田佐世事務局長（弁護士）の講演。猿田さんは「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」結成のきっかけとなった 2 年前の横浜集会（約 200 人参加）でも講演していただいた。ND は 3 年間の研究活動の成果をまとめて本年 2 月に提言「今こそ辺野古に代わる選択を」を発表、沖縄タイムス、琉球新報で詳しく報道されて大きな反響を呼んだ。7 月にはこの提言を持ってワシントンに乗り込んでシンポジウムを開催し、米国防総省や議会関係者にも面談した。今回は、この精力的な取り組みの直後のタイムリーな講演となった。

今年 2 月に発表された ND の提言は、軍事的な観点から、安全保障論の土俵の中で「辺野古唯一論」に反論している。<http://www.nd-initiative.org/topics/3372/>

猿田さんがそのような提言を考えたのには理由がある。基地なんてなければいいと思うが、アメリカ人はそうは考えない。軍事的な議論ができないと、無視されてしまう。「軍事的観点、安全保障の観点で考えても、辺野古の埋め立ては必要ないよ」と言うことで、一瞬でもアメリカの議員に考えさせたい。3 年間かけて、元外務官僚や基地問題に詳しいジャーナリスト、研究者などに協力してもらい提言を出した。米軍にとっても魅力的な案にするために、高速輸送艇を日本が提供したり、費用を出したりということまで提案している。

提言は様々な議論を呼んでいる。具体的内容は ND の HP などでも確認してほしい。講演の締めくくりに猿田さんが強調したのは次のことだ。もちろん現場の座り込みが一番重要だと私も思う。でも軍事的な提言することにも必要だ。ND が安全保障の観点から軍事研究することへの批判もあるが、沖縄の現場の人からは『自分たちのできないことをやってくれてよかった』と歓迎されている。沖縄タイムス、琉球新報も社説で評価してもらった。



猿田さんの講演のあと、特別報告として全造船関東地協 JFE・日本鋼管分会の H さんから辺野古の埋め立て用ケーソンの製造中止を求める JFE エンジニアリング(株)横浜本社への申し入れ行動の報告がされた。

ケーソンは高さ 24m 奥行 22m 長さ 52m の巨大なコンクリート製のケース。辺野古の海の一番深いところに埋める。2015 年 1 月にケーソン護岸工事が契約されているが、受注した五洋建設と非常に親しい JFE エンジニアリング(株)の津の製作所でケーソンを製造しようという計画だ。辺野古の埋め立てに使うケーソンを造らせるな！と「三重県民の会」が立ち上がり、私たちの組合も会社に対して申し入れをしている。県民の会は昨年、8 月に 16000 人分の反対署名を持って横浜本社にきたが、会社は受け取らなかった。今年の 6/28 にも私たちの組合や結ぶ会、平和運動センターなどで呼びかけて約 70 人で申し入れに行ったが、申し入れ書も受け取らなかった。あまりにひどい対応だ。

その後、会社が言うには、ケーソン製造は発注もされていない。だから受注もない。それが深刻だと思ったのは、脆弱な辺野古の海底地盤の問題があるのではと疑っている。地盤改良で設計変更になれば翁長知事が変更申請を許可する可能性もない。技術的にも深刻な問題になっているのではないかと。当初契約では本年 9/30 がケーソン護岸工事の完成期限になっている。それが現段階で発注もされていない。これは闘いの成果だと思う。そう考えていくと、辺野古の新基地は建設できないのではないかと確信が持てる。沖縄の人々と一緒に闘いたい。

特別報告に大きな拍手。最後に結ぶ会の仲宗根保代表世話人から閉会挨拶。司会からは沖縄県民大会に呼応する 8.12 首都圏行動など今後の行動・集会への参加が呼びかけられた。

派遣基金の会場カンパは 40163 円集まった。また、猿田さんが持参した ND の関連図書は 3 種類、約 30 部 50800 円の売上となった。

